

会社概要 (2025年3月31日現在)

商 号 アリアケジャパン株式会社 (ARIAKE JAPAN Co., Ltd.)
代 表 者 代表取締役社長 白川 直樹
創 業 1966年6月2日
資 本 金 7,095,096千円
従 業 員 数 733名
関 連 会 社 ● 青島有明食品有限公司
● 日照有明食品有限公司
● 台湾有明食品股份有限公司
● F.P.Natural Ingredients S.A.S.
● Ariake Europe N.V.
● Henningsen Nederland B.V.
● PT. Ariake Europe Indonesia
● Ariake U.S.A., Inc.
● 株式会社エー・シー・シー
● アリアケファーム株式会社



所 在 地 ● 本社
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 三丁目2番17号
電話 03-3791-3301 (代表)
● 九州工場
・第1工場
・第2工場
・中央研究所R&Dセンター
・パックセンター
● 名古屋支店
● 大阪支店
● 福岡支店
● 仙台支店
● 札幌営業所

株式の状況 (2025年3月31日現在)

発行可能株式総数 130,000,000株
発行済株式の総数 32,808,683株
株主数 6,853名

株主メモ

事 業 年 度 4月1日から翌年3月31日まで
期 末 配 当 基 準 日 3月31日
中 間 配 当 基 準 日 9月30日
定 時 株 主 総 会 毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1
電 話： 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先： 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

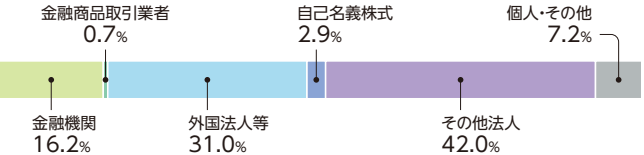
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所 プライム市場
公 告 方 法 公告URL <https://www.ariakejapan.com/>

大株主 (上位10名) (2025年3月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ジャパンフードビジネス株式会社	10,618	33.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,046	9.57
公益財団法人岡田甲子男記念奨学財団	2,196	6.90
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	1,433	4.50
JP MORGAN CHASE BANK 385840	1,354	4.25
RBC IST 15 PCT NON LENDING ACCOUNT – CLIENT ACCOUNT	1,062	3.34
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	896	2.82
JP MORGAN CHASE BANK 385632	838	2.63
株式会社王将フードサービス	784	2.46
BBH FOR UMB BK, NATL ASSOCIATION–GLOBAL ALPHA INTL SMALL CAP FUND LP	617	1.94

※ 1. 当社は自己株式を960千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
3. 持株数は、千株未満を切捨ててによって表示しております。

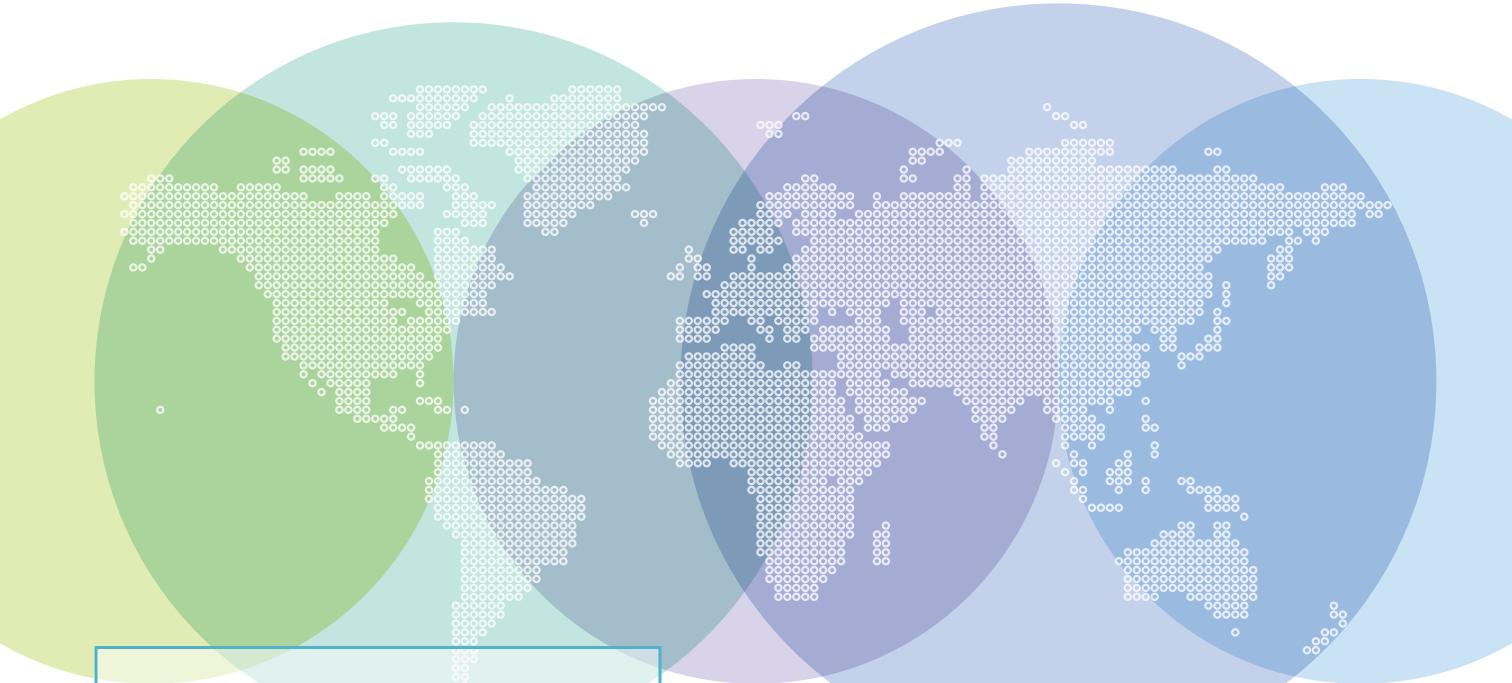
所有者別株式数構成比率



ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっています。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっていますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受額の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

証券コード番号：2815



第47期 事業報告
2024年4月1日 >>> 2025年3月31日

IR Report

自 然 が お い し い 。

<https://www.ariakejapan.com/>



国内の外食向け製品が好調に推移し、売上高は過去最高を更新。
製販の利益改善の取り組みが功を奏し、
営業利益が大幅に増加しました。



代表取締役社長
白川 直樹

Q 2025年3月期の業績について教えてください。

連結ベースで、売上高は65,400百万円(前期比9.0%増)、営業利益は11,117百万円(同28.3%増)、経常利益は12,001百万円(同12.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は8,206百万円(同11.6%増)となりました。単体では売上高は47,520百万円(前期比6.3%増)、営業利益は7,780百万円(同31.3%増)、経常利益は8,718百万円(同10.1%増)、当期純利益は6,380百万円(同14.8%増)となりました。

国内市場における外食向け製品が売上を牽引し、連結、単体ともに売上高は過去最高を更新、営業利益率も改善し、大幅な増益となりました。

Q 利益率が計画を上回る結果となった要因は何ですか？

期初計画では単体の営業利益率を15.0%、連結を15.8%としていましたが、アリアケジャパン単体における生産現場のコストダウン活動と営業の価格改定の両輪を回すという利益改善施策を着実に実行したことが成果につながり、単体で1.4ポイント上振れ16.4%となり、連結ベースでも17.0%と計画を上回る結果で着地しました。数年来原材料価格が大幅に高騰しているなかで、しっかりと結果が出せたことの意義は大きいと考えています。

経営理念 ①

わが社は、価値ある天然調味料の生産を通して、
人類の永遠のテーマである
健康で豊かな食文化の発展に寄与し、
広く世界に貢献する会社たらんと努力する。

Q 売上が伸びた要因はどのようなものでしょうか？

対前年で28億円の増と好調な国内の売上高が好業績の要因となりました。国内市場では外食業界のニーズに応えた製品が伸びました。顧客ごとにきちんとカスタマイズしながらも大量生産でき、他社製品に比べて高品質かつ低価格であるという当社の優位性が認められた結果だと受け止めています。また、深刻な課題である人手不足に対応した製品であることも高く評価されました。

海外市場では中国が不況の影響により成長スピードが減速した一方、欧州が既存製品を中心に計画以上に売上を伸ばすことができ、海外グループ会社全体でも26億円の増収でした。

Q 国内市場の動向について教えてください。

国内のカテゴリー別売上高比率ですが、外食が46%、コンビニ・中食が33%、食品メーカーが20%で、前期比ではコンビニ・中食が1ポイント減り、外食が1ポイント増加しました。それぞれの伸び率で見ると、外食の伸びが9%、コンビニ・中食が2%、食品メーカーが8%でした。外食が堅調だった要因の一つ

経営理念 ②

顧客第一主義を理念として、チャレンジ精神をもって、
より安く、より早く、より正確な生産に励み、
時代のあらゆるニーズに応えるべく、
真心と誠意をもって販売に努力する。

として、当社の主要顧客である大手外食チェーンでの採用拡大が挙げられます。また、主に地方を拠点とする中堅チェーンでも人手不足を背景に当社製品の優位性が認められ、新規採用が獲得できました。国内においては今後もこの流れが継続するものと見ています。

Q 海外市場はどのような状況ですか？

地域ごとに課題はあるものの全体としてみれば堅調でした。中国市場は、不況の影響を受け食品業界全体がマイナス成長のなか、新規顧客開拓、既存顧客深耕に積極的に取り組み、当社は前期を上回る増収増益の業績を残せたことは非常に健闘した結果だと考えています。台湾は台湾外食企業向けが好調で増収増益、インドネシアはインドネシア国内とASEAN向けの輸出に注力し、増収でしたが減益となりました。次に欧州ですが、オランダは欧州域内のインダストリー向け製品の売上を伸ばし前期同様に堅調でした。フランスは新規採用により欧州域内へのストック類の売上増を図るとともに、期の後半に日本向けの輸出を増やしたことで固定費を吸収し、増収増益となりました。ベルギーはUHTブイヨンの販売の伸びは僅かでしたが、新規顧

客の開拓にも成功したことでインダストリー、フードサービス向けのストック類の売上が順調に伸び、増収となりましたが、減価償却費増により減益でした。ベルギーの売上増、利益改善につきましては重要課題と位置づけ、グループとしての取組みを進めており、今期には結果を出したいと考えております。

Q 長期目標、また、中期経営計画の進捗はいかがですか？

2030年度に連結売上高1,000億円を目指す長期目標に変更はありませんが、中国市場の減速をはじめ海外事業の環境変化及び国内業績の順調な伸長を考慮すると、国内550億円、海外450億円程度になると想定しています。2028年3月期を最終年度とする今中計では、国内においては好調な外食向けに注力するとともに、祖業であるエキス調味料事業の営業を強化し既存領域での売上を伸長させ、さらに、大豆を原料としたプラントベース製品や消費者向けB2C製品など新規領域の拡販

を行い事業拡大を図ります。

海外では当社の強みとするエキス・ストック類を主体にB2B顧客の深耕及び新規開拓を進めるとともに、ベルギーにおけるUHTブイヨンや中国における予製菜(調理済み最終製品)などB2Cへのチャレンジ、国内同様にプラントベース製品の拡販の3つに注力し、成長市場を取り込みたいと考えています。

今中計の期間に連結及び単体で過去最高売上を更新するとともに、過去最高営業利益を達成する予定です。

また、大きな可能性がある米国市場への進出に関しましては、米国子会社の設立、建設用地の土地調査の開始、現地拠点の設置など着実に進行しております。

Q 2026年3月期の重点施策を教えてください。

キーワードは「勝ち組」、「新規開拓」、「輸出」です。「勝ち組」というのは今後成長鈍化が避けられないと見られている国内の食品業界のなかでも、特に競争力の高い大手外食チェーン向けのニーズにしっかりと応えていく、ということです。

次に「新規開拓」ですが、当社の食品B2B業界でのブランド力、認知度は非常に高いと自負してはいるものの、まだまだ開拓の余地はあると思っています。新規取引先に対し当社の強み、提供できる価値を提案し、しっかりとお伝えして取引に繋げることは営業活動の原点であり、重点施策として取り組みます。3点目の「輸出」ですが、当社の世界7極最適地生産体制という強みを活かし、日本から海外へ、海外子会社から周辺市場へ輸出を伸ばしていきたいと考えています。インドネシアはハラル製品の製造を手掛けており、周辺のハラル国への輸出を強化します。台湾からは東南アジア向けにハラル対応が必要無い製

■ 当社グループの事業計画(目標数値)

(億円)

	2025年3月期 (実績)	中期経営計画		
		2026年3月期 (計画)	2027年3月期 (計画)	2028年3月期 (計画)
連結売上高	654	671	707	737
国内(単体)	475	490	507	524
海外(連結子会社)	206	214	238	253
連結調整	△ 28	△ 33	△ 37	△ 40
連結営業利益	111	122	140	147
国内(単体)	78	84	97	101
海外(連結子会社)	33	38	42	46

※連結子会社には株式会社エー・シー・シーを含みます。

品の輸出を考えています。また、欧州では急速に高まっている日本食ニーズへの対応を行います。海外子会社で対応できないような高品質または特殊な製品については、日本からの輸出という棲み分けをして、生産の最適化をはかり効率性、収益性の向上に取り組みます。設備投資については、2028年3月期までは利益改善フェーズであり、国内、海外とも維持更新投資を中心に実行していきます。

Q 株主還元について聞かせてください。

当社は、従来からDOE3%以上という基準に基づいて配当いたしておりましたが、好調な業績と強固な財務状況を踏まえ、当期は、DOE3.4%となる年間配当金130円を配当いたしました。それにより、配当性向は50.5%となりました。

引き続き、売上増、利益改善により利益増大に取り組み、株主の皆様方には、先が見通せない不確実性が高い現状を踏ま



え、今後はDOE3%以上の基準に加え、配当性向も併せて考慮することで配当を重視した株主還元施策を実施したいと存じます。

Q 株主の皆様にメッセージをお願いします。

当社は2026年6月で創業60周年を迎えます。この機に創業者、創業の想い、祖業であるエキス調味料事業の価値などを再認識し、改めて全社員とリスペクトの思いを共有したいと考えています。その上でこれから先、100年企業に向けて新たな価値創造の歩みを始めるために、次の時代を担う社員の方々には、食品業界の周辺に広がる新たな市場を見つけ出し、貪欲にチャレンジしてほしいですし、そのための背中を押したいと考えています。

引き続き持続的な成長と中長期的企業価値向上を実現してまいります。今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

役員紹介

アリアケジャパンの取締役ご紹介

2025年6月開催の第47回定時株主総会で取締役8名(うち監査等委員3名)が選任され、取締役5名、監査等委員である取締役3名の体制となりました。また、取締役8名のうち4名が社外取締役であり、取締役の半数を構成しています。当社の経営体制をご紹介します。

取締役(5名)



代表取締役社長
しらかわ なおき
白川 直樹



専務取締役
営業本部長
かめおか まさひこ
亀岡 正彦



取締役
経営管理室長兼経理部長
まつもと こういち
松本 幸一



取締役
営業統括部長
いわき こうじ
岩城 幸司



社外取締役
さ さ き たかひこ
佐々木 隆彦※

監査等委員である取締役(3名)



社外取締役
監査等委員 委員長
ほしの せいし
星野 誠之※



社外取締役
監査等委員
あ べ まさゆき
安部 真行※



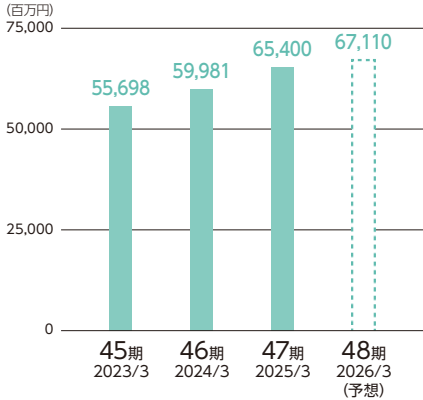
社外取締役
監査等委員
たかとり ゆきこ
高取 幸子※

※会社法第2条第15号に定める社外取締役の要件を満たしています。また、(株)東京証券取引所に独立役員として届け出ています。

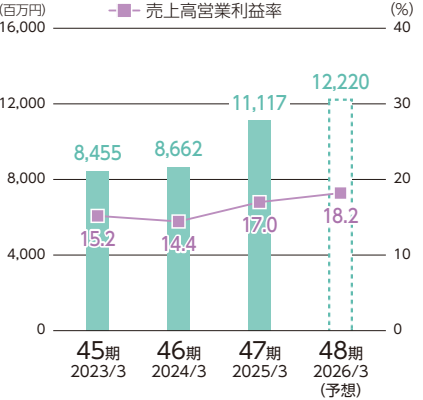
業績・財務ハイライト

連結決算のポイント | 売上高は過去最高を更新、営業利益率も大幅に改善し、大幅な増益となりました。

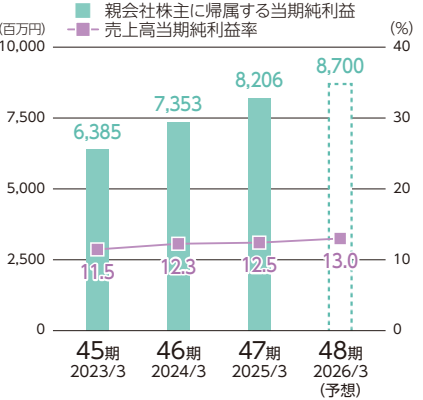
売上高



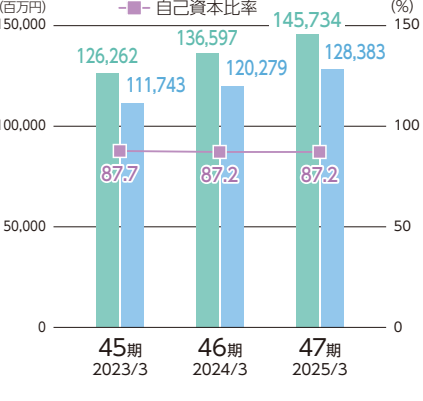
営業利益／売上高営業利益率



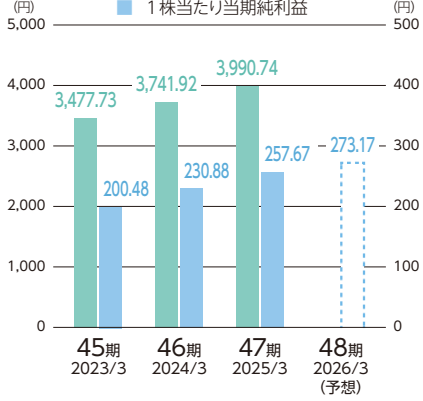
親会社株主に帰属する当期純利益／売上高当期純利益率



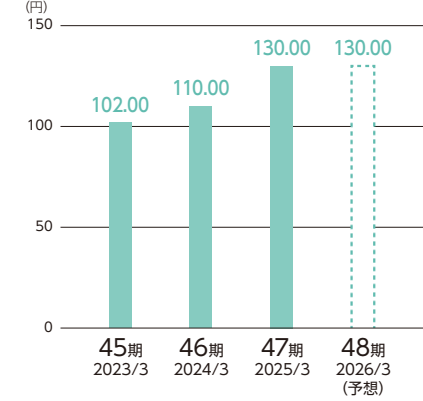
総資産／純資産／自己資本比率



1株当たり純資産／1株当たり当期純利益



1株当たり配当金



ホームページでもさまざまな情報をご覧いただけます。<https://www.ariakejapan.com/> または でご検索ください。